

31 明治6年4月11日 菊池長閑宛

第五号 四月十一日認 (長閑注記)

第九号未達第拾号相達候先達而嶋田伯母様并菊池氏出京之節松
 寿糖二筐御通投被成難有珍物を味候折節嶋田を見舞種々御様子
 并故郷之形勢歎話致候同人通二丁目横丁数寄屋町山本市郎右衛
 門方ニ寄宿致病院外国教師之診察を得葉ハ目沢右教師見込ニ
 従ヒ取寄服用致居候追々快愈之趣ニ候二分土産之代りとして投与
 被致候○御祖母様演戲場にて人之下ニ御成被遊候少々御健康
 御損し之趣実不慮之御不幸御座候○給貸一件先達而取扱後何之

沙汰も果無之且文部省之返答ニ相成得共同省にてハ別ニ糾問
 ニ不及とて学校も何咎も無之候間御安心被下度候先日之試験
 ハ自ら仕損しと思之外等中学第三級ニ相成意外之愉快ニ御座
 候且第五級及ヒ第四級学科卒業之免状取候○少く丈夫なる洋服
 ハ殆拾円ならてハ出来不申故深く思慮致候所第五級にて試業之
 節まで級長致居候賞として拾円校給賜候ニ付幸右金にて拵候頭
 給戻まで履除キ拾一円計ニ候得ハ一年杯ハ大丈夫不損ニ被用可
 申と存候余ハ五拾円除キ拾八円計御座候少く遣過候と思召候ハ
 んか此段御海怨奉希候右五拾円にてハ今年中之月俸授業料一円
 宛并書籍修繕料修繕料ハ書価ノ百分ノ一教授料と同じく毎月納
 込に差向可申併其ニても員数駈ト不相分候得共殘金可有之と存居
 候先頃失候本監事も探索致呉候得共見付兼二円計被取可申候疎
 忽にて無益之入費を起候前条級長ト申ハ毎級ニ有之級中之人々
 撰に入札を以テス札数之多者一人ヲ組之級長ト定所謂級中諸生
 之代議人なり然レトモ役人ニ非ス只一書生にて教則課業生徒之
 勤惰等を組ニ代テ監事ト論談スル而已にて五ヶ月間如此馬鹿ら
 しき事ニ被繫候然し日々之勉勵ニ妨す其丈ハ宜有之候此事ハ決
 テ他人ニ御慚不被下様御祖母様ニも御申上奉希候実ニ私如キ者
 ハ級長ニ成トハ自ら恥し御一笑々々只今ハこの煩敷事ヲ逃候
 ○写真二枚差上候○登竜丸ハ次便ニ讓可申併調置候以上

御尊父様

新曆十八歳九ヶ月 武夫拜

(長閑注記)

〔(朱書)四月十八日達し返書四月廿九日第十二号ヲ以郵便へ出し〕